

平成26年度 肝炎情報センター主催 看護師向け研修会

病棟と外来との院内看護師連携は うまく図られているか ～肝疾患相談室と病棟・外来の連携～

名古屋市立大学病院 肝疾患相談室

向谷登貴子

本日の内容

- 1. 当院の概要**
- 2. 肝疾患相談室の紹介**
- 3. 肝疾患相談室と病棟・外来看護師の連携**
- 4. 事例紹介**
- 5. 連携をより充実させるために**

名古屋市立大学病院の概要

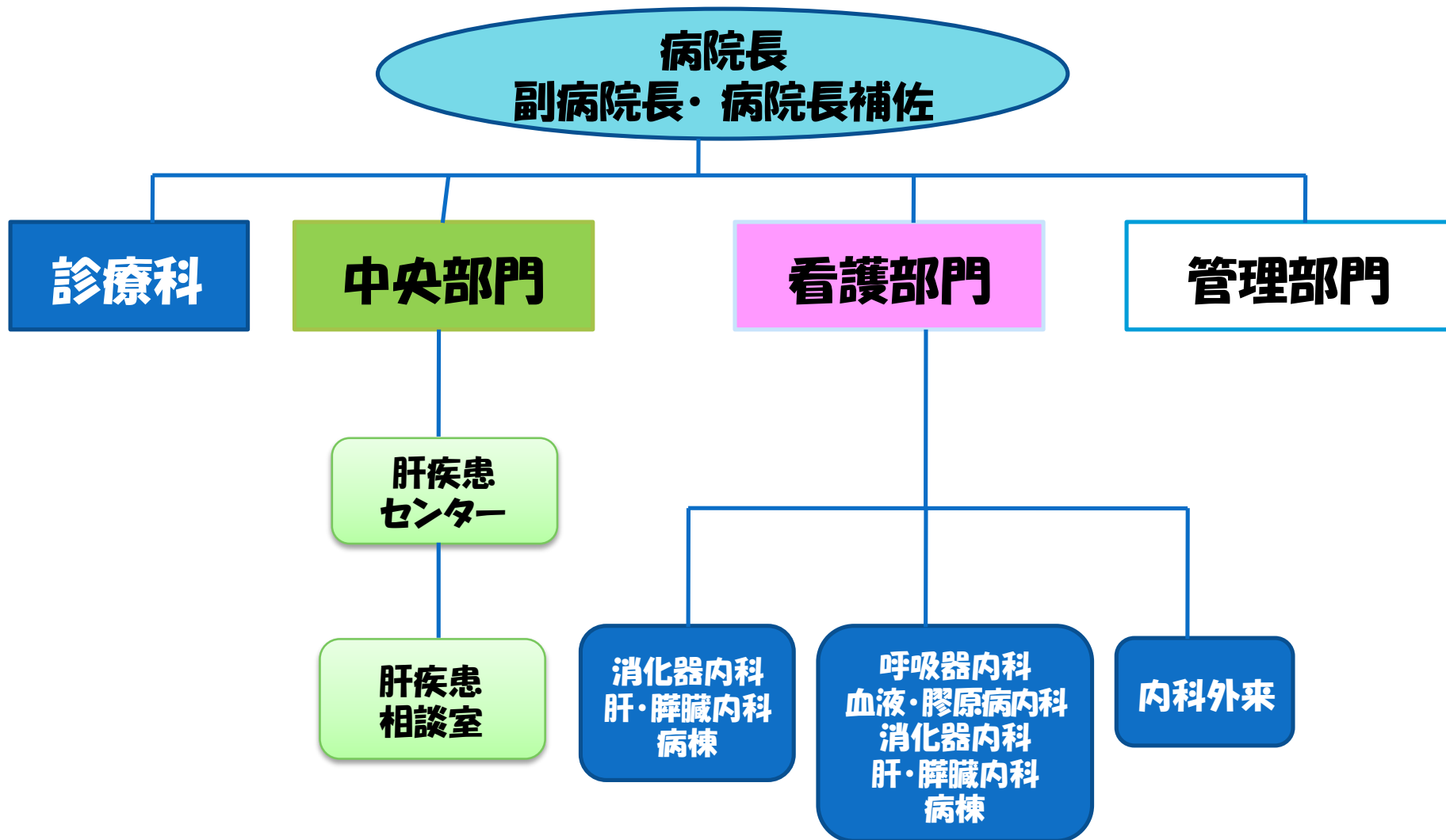


- 病床数: 808床
(21病棟 794床、集中治療部10床
急性心臓疾患治療 4床)
- 1日外来患者数 1820人(9月)
- 病床稼働率 85.3%(9月)
- 在院日数 14.4日(9月)
- 平成19年
災害拠点病院の指定
- 平成20年
がん診療連携拠点病院の指定
肝疾患診療連携拠点病院の指定
- 平成25年
病院機能評価(機能種別 一般病院2)認定

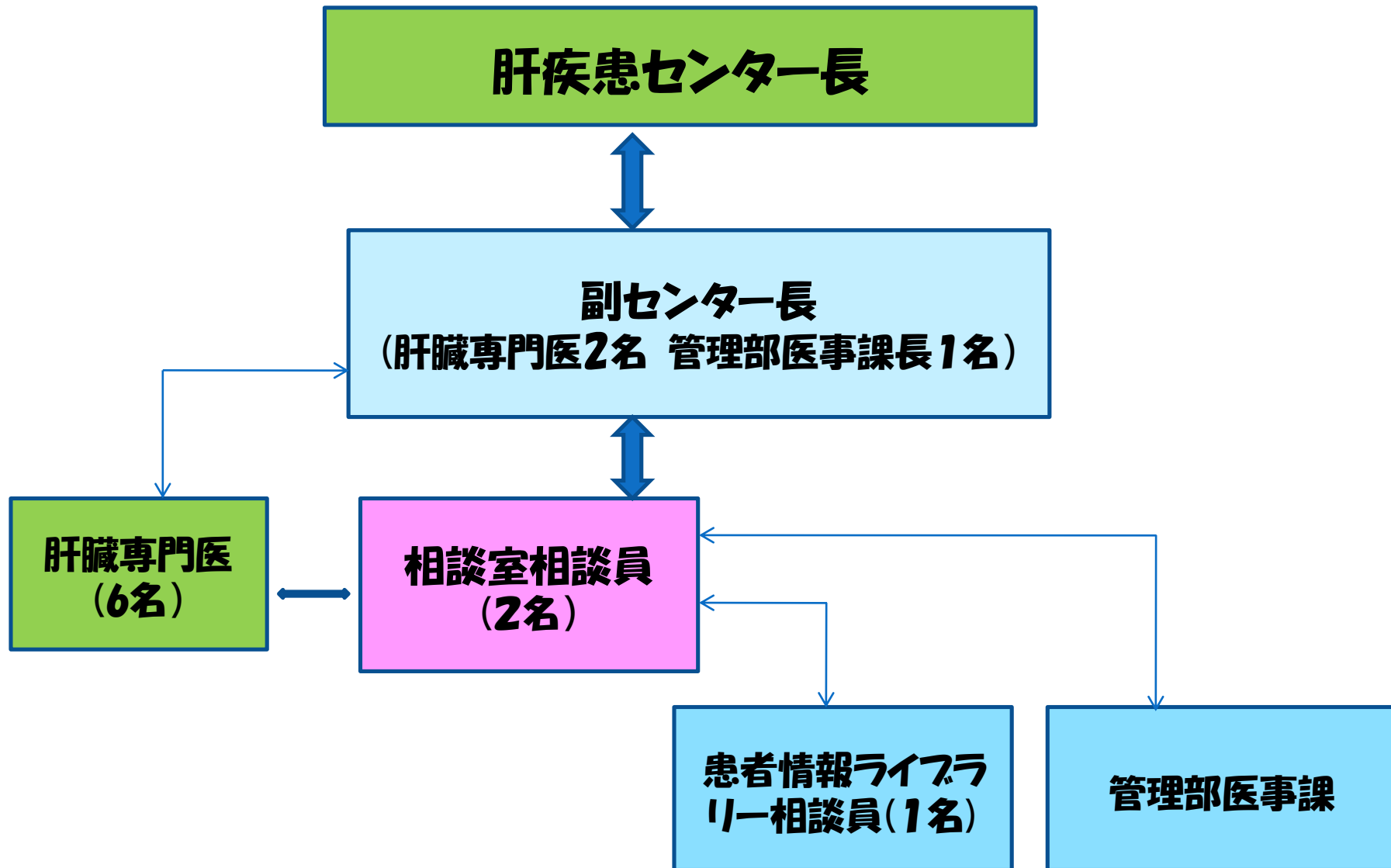
肝疾患相談室



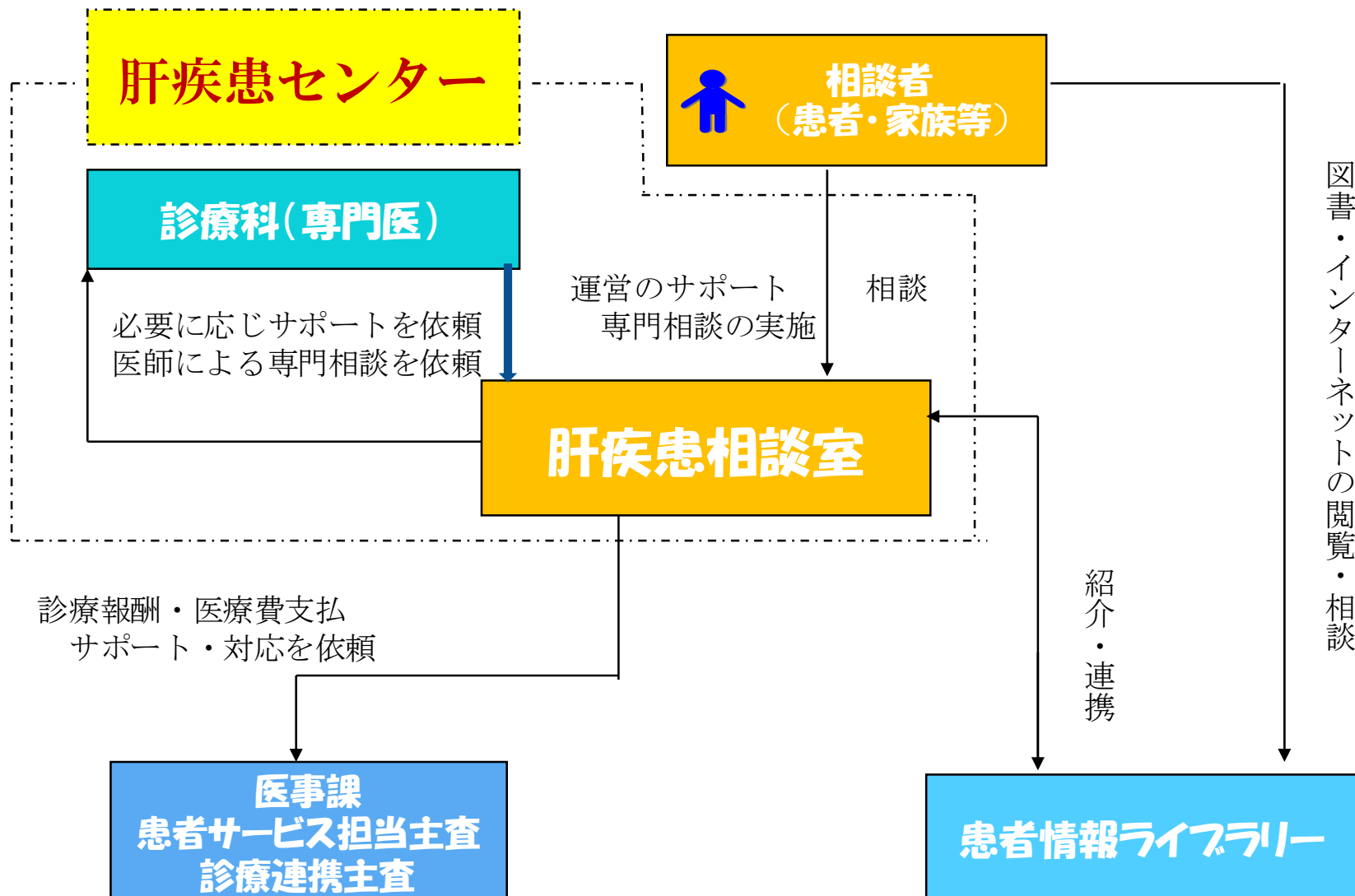
病院組織



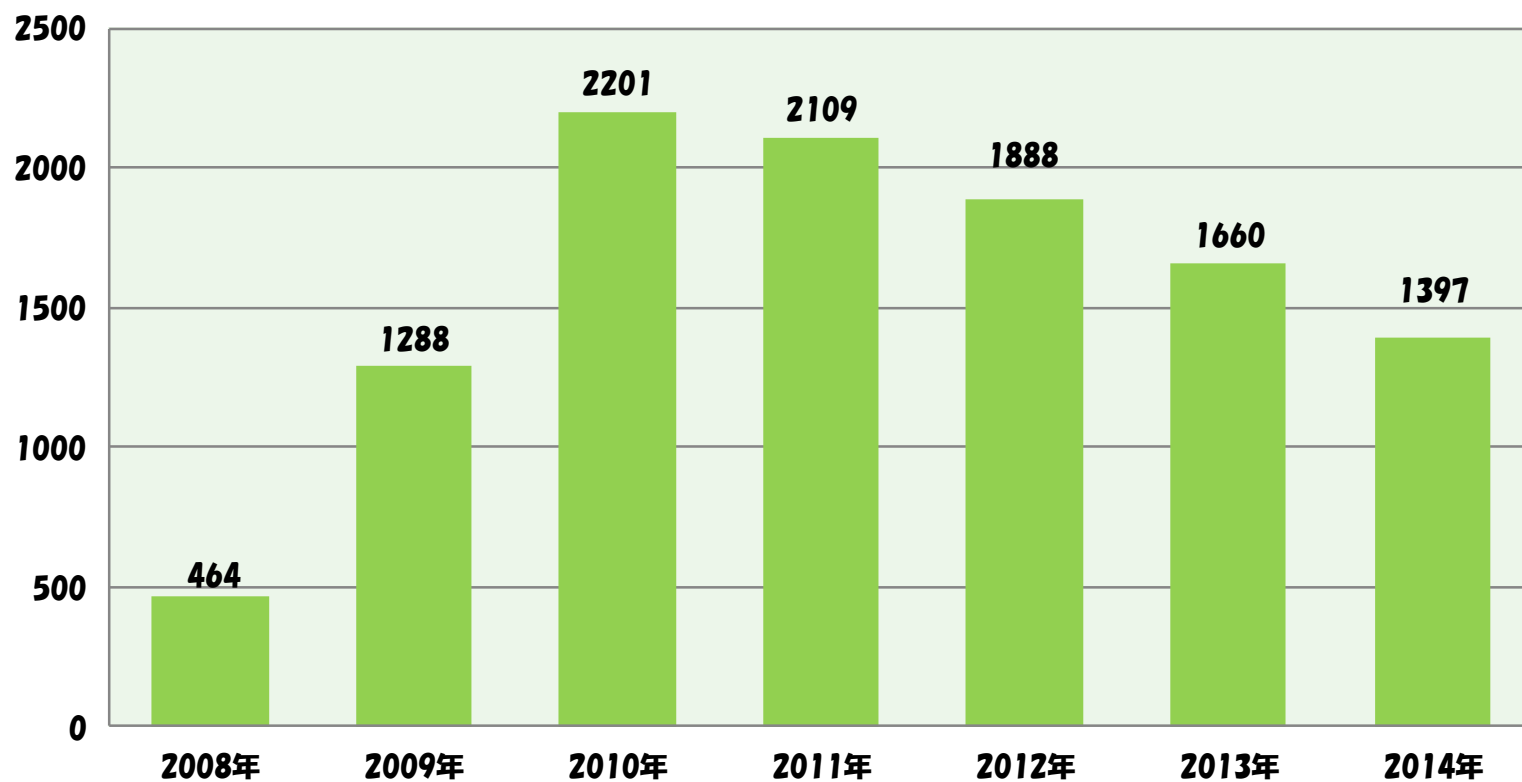
肝疾患相談室 組織図



相談等のながれ(フロー図)

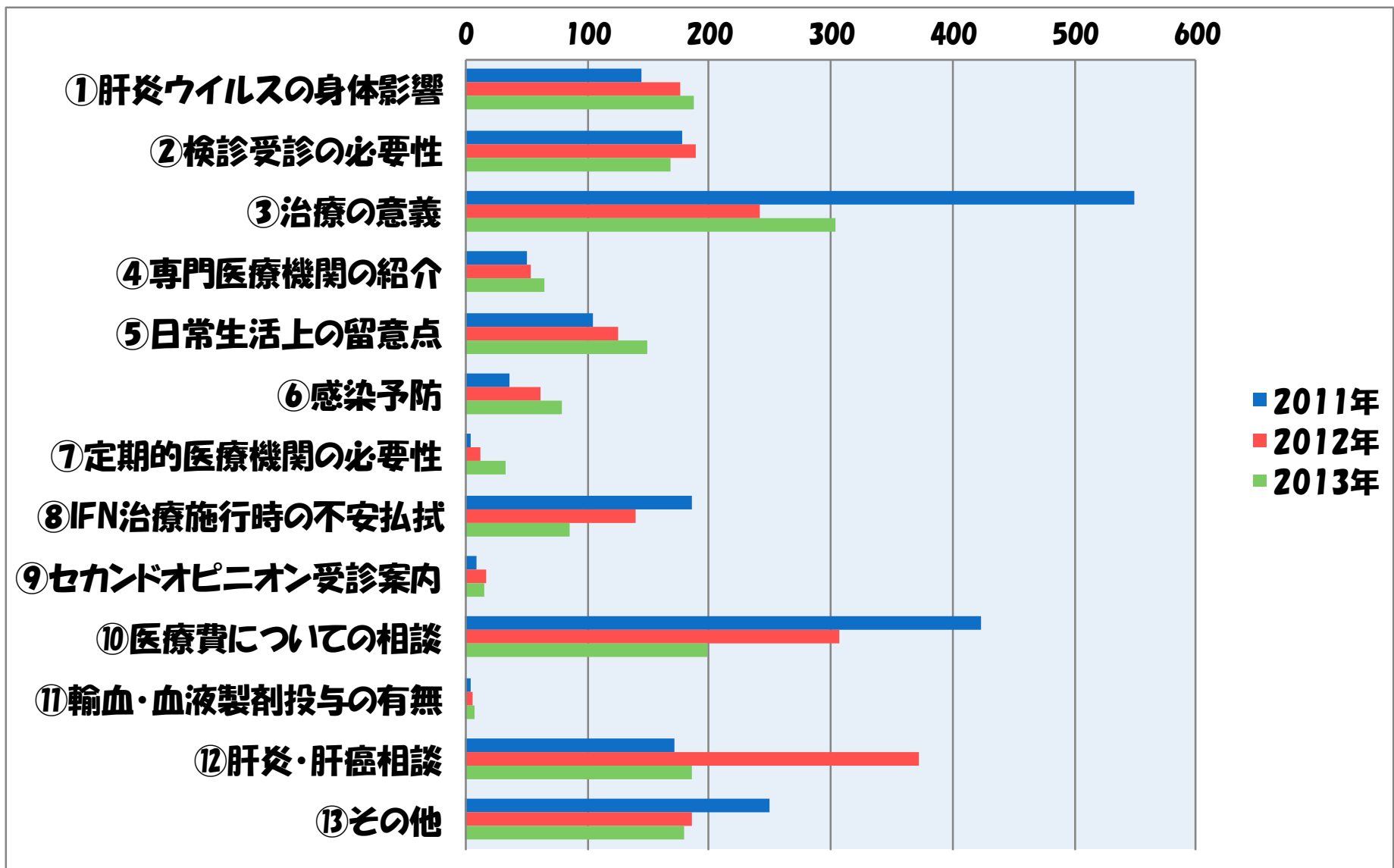


相談件数



※2008年度は7月～3月の9ヶ月分、2014年度は4月～11月の8ヶ月分

相談内容種別(重複チェック)



病棟の概要

消化器内科、肝・膵臓内科 病棟

病床数: 47 (肝・膵臓内科: 23床)

看護師数: 24

看護体制: 7対1看護

特徴:

- ・肝炎、肝癌、肝硬変の検査及び、ラジオ波、肝動脈化学塞栓療法、IFN治療などの様々な治療に加え、癌の末期の緩和的医療を行っている。

呼吸器内科、血液・膠原病内科、消化器内科、肝・膵臓内科 病棟

病床数: 45 (肝・膵臓内科: 9床)

看護師数: 24

看護体制: 7対1看護

特徴:

- ・内科の混合病棟、血液疾患の患者が入院の半数を占めている。
- ・化学療法患者が多く、造血幹細胞移植治療も行っている。

内科外来の概要

**臓器・疾患別の10診療科がある
診察室25と処置室**

看護師数: 13

外来患者数: 534人/日 (H25年度 平均)

肝・脾臓内科外来者数: 77.9人/日 (H25年度 平均)

現状:

- ・処置室に半数の看護師配置、一人で複数の診察室を担当
- ・IFN治療患者には処置室で関わっている

肝疾患相談室と病棟・外来看護師の取り組み I

マニュアル等の作成

2010年

8月 肝炎IFN治療地域連携パス作成

2011年

9月 B型肝炎訴訟対応時の「接種痕意見書への対応」「カルテ開示への対応」「HBV分子系統解析検査・HBVサフジェ/タイプ判定検査」についてフローチャート作成

2012年

**1月 テラビックの自己管理指導マニュアルとクリニカルパスの作成
消化器内科、肝・臓臓内科病棟でテラビックを含む3剤併用治療
導入開始**

2014年

5月 「B型・C型肝炎の患者さんへ」の案内票作成

「B型・C型肝炎の患者さんへ」の案内票を待ち合い室に掲示



診察室に掲示



引き出しに置いてある。



肝疾患相談室と病棟・外来看護師の取り組みⅡ

研修会の参加

院内

- 肝疾患医療従事者研修会（肝疾患センター主催）
講師：肝専門医（2010年～毎年実施）
 - 院内看護セミナー（看護部主催）
講師：肝専門医 病棟看護師 相談員（2011年、2012年実施）
-

院外

- 「肝炎・免疫研究センター主催：看護師向け研修会」
相談員・看護師 2009年度～毎年参加
※2011年、2012年は病棟看護師が講師として参加。
- 「肝炎・免疫研究センター主催：相談員研修会」
相談員・看護師 2010年度～毎年参加

肝疾患相談室と病棟・外来看護師の取り組みⅢ

相談室研修とカンファレンスの実施

2014年

**7月 消化器内科、肝・膵臓内科病棟より依頼を受け
肝疾患相談室研修を実施**

**9月 内科外来看護師と肝疾患相談室との
カンファレンスを実施**

肝疾患相談室研修内容(病棟)

目的:肝疾患相談室と病棟間で連携できる内容を検討する

目標:肝疾患相談室との連携を高め、肝疾患患者の療養生活を支援する

対象:消化器内科、肝・膵臓内科病棟の肝臓グループ看護師4名

日時:平成26年7月16日・17日10時～12時 各日2名

研修内容

☆肝疾患相談室の見学

☆相談室で行われている内容を聞く

病棟看護師が知りたいこと

1. 相談の多い疾患、相談内容
2. 3剤療法を入院導入した患者が、退院後に相談にきているか
3. 相談室から病棟看護師へ求めること
4. 病棟と連携できること
5. 相談室に来た患者の相談内容をカルテ記載することとは可能か

病棟

1.相談の多い疾患は、相談内容は？

B型・C型ウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓がんが主で、最近ではアルコール性肝炎も増えている。

治療について、医療費についてが、最も多い。次に、日常生活の留意点、受診相談が多い。

2. 3剤療法を入院導入した患者が、退院後に相談室に来ているか？

- ・テラプレビルの治療では、「皮疹が広がったが大丈夫か、治療を続けられるか心配」と診察前に来室
- ・ソフィアードの治療では、「連携先の病院を紹介してほしい」と来室

病棟

3.相談室から病棟看護師に求めることは？

初めての入院患者は不安を抱えている。入退院を繰り返している患者は、家族も含めて良くないという気持ち強い。お互いに患者や家族の思いを共有しながら、療養生活を支援できるとよい。

4.相談室と病棟で連携できることは？

今後出てくる内服治療等、専門医から最新の情報が入ってくるので、情報提供することは出来る。

5.相談室に来た患者の相談内容を、カルテ記載することは可能か？

相談は診療行為ではないため、カルテ記載はしない。

研修後の病棟看護師の感想

- ・相談内容が多岐にわたっている。
- ・入院在院日数が短いため、病棟で退院後の生活を見据えた情報収集をすることが難しい状態、患者が相談にきたら情報をもらえるとありがたい。
- ・相談室には、肝疾患の本や資料、パンフレットが揃っているので、必要時、患者さんに相談室をすすめてもいいと思った。
- ・病棟と相談室でなにか連携できることを一緒に考えていきたい。

内科外来看護師とのカンファレンス

目的： B型・C型肝炎治療患者への援助について考える

参加者： 外来看護師5名、相談員2名

日時： 平成26年9月2日 15時～15時40分

内容： 情報交換・意見交換

内科外来看護師からの質問

1. 外来から紹介される患者の対象、どんな目的で相談室にくるのか
2. INF治療患者はどのタイミングで相談室にくるのか、医師が紹介するのか
3. 肝炎医療助成について

外来

1. 外来から紹介される患者の対象、どんな目的で相談室にくるのか？

- ・肝炎医療助成の申請手続きの説明を受けるため
- ・一般的な病気の話をしてほしい、肝硬変の食事やLESについて説明してほしい。

- ・医療助成の申請について聞きたい
- ・新薬や治療についての情報収集
- ・病気のことについて知りたい

2. INF治療患者はどのタイミングで相談室にくるのか、医師が紹介するのか？

- ・治療開始前、医療助成の申請手続きのため。
- ・治療中は、副作用が辛い、治療が中断していて不安等で相談を受ける。
- ・治療終了後、再発した時

外来

3. 肝炎医療助成について

- ・C型肝炎治療は、新薬が出る度にガイドラインが変更され、毎年のように医療助成の対象も追加され、制度が複雑になっている。
- ・医療助成の対象者、対象となる治療、患者の自己負担額について
- ・医療助成申請時の患者の動き、ながれについて

カンファレンス後の内科外来看護師の感想

- ・肝炎医療助成申請の流れ、患者の動きがわかった。
- ・医療助成の申請をしていないと、患者に不利益となることがわかった。
- ・IFN治療患者には、注射時に副作用を観察し、記録しているが、今後は、医療助成の申請が済んでいるかの確認も必要だとわかった。
- ・外来と肝疾患相談室で今後も話し合いの機会があるといい。

事例 1 (病棟)

C型肝炎

IFN治療導入のため入院予定、家族より、「患者本人に病名や治療の詳しい話は入っていない。病名や治療について学校に伝えた方がいいのか迷っている。学校には何も言わずに治療したい」

事例 2(病棟)

B型肝炎

抗ガン剤治療中、バラクルード内服中で肝炎医療助成受給(H22年4月)を受けている。

患者は、受給者票と次年度分の更新用診断書が同封されていたので、更新用の診断書をどうしたらよいかと病棟の看護師に相談した。

連携をより充実させるために

- 研修会の参加をきっかけに、病棟・外来看護師との連携を深めることが出来た。
- 更に充実させるために、病棟・外来・相談室の意見交換ができる場や勉強会を企画していく。
- 毎年、肝炎治療のガイドラインや医療助成制度は変更されるため、最新情報を提供していく必要がある。